

東寺方複合施設の整備に向けた地域協議会 第2回 議事要旨

日時 令和7年7月12日(土) 10時00分-12時30分

出席者 委員14名(敬称略)

大鷲 修平、藤井 栄次、齊藤 仁、池埜 美由貴、櫻井 清蔵、真野 郷子、小笠原 猛夫(代理 藤原氏)、松崎 俊明、松戸 友美、大久保 裕美、瀧口 さとみ、由木 昌子、山本 常人、岡部 恭子
(欠席) 藤井富男

市

田島協創推進室長、長谷川児童青少年課長、渡邊図書館長、五味田高齢支援課長、
鈴木東寺方老人福祉館長、西村担当主査、村上、
松田行政サービス・アセット担当部長、萩野資産活用担当課長、萩生田担当主査、岩崎、田中
東京都立大学
国重 安沙

場所 東寺方複合施設3階 第一会議室

配布資料

- 資料1-1: 東寺方複合施設の整備 方針の策定 に向けた パートナーシップ協定
- 資料1-2: 地域協議会 NEWS第1号
- 資料1-3: 前回の意見まとめ
- 資料1-4: 市民からの意見まとめ
- 資料1-5: 地域協議会委員からの資料要求
- 資料1-6: 東寺方複合施設が有する機能 (当日配布)
- 資料2-1: 児童福祉法等(抜粋)
- 資料2-2: 児童館の設置運営について(通知)
- 資料2-3: 東寺方児童館アクティビティリスト
- 資料2-4: 児童館の今後のあり方基本方針
- 資料2-5: 瀧口委員作成資料
- 資料2-6: 大鷲委員作成資料
- 資料2-7: 大鷲委員作成資料
- 資料3-1: 図書館法
- 資料3-2: 図書館の設置及び運営上の望ましい基準
- 資料3-3: 東寺方図書館アクティビティリスト
- 資料4-1: 老人福祉センターの種別
- 資料4-2: 東寺方老人福祉館アクティビティリスト
- 資料4-3: コミュニティ施設の今後のあり方に関する基本方針
- 資料5-1: 東寺方複合施設の整備に向けた地域協議会の全体会議及び報告会(中間・結果)の開催日程
- 資料5-2: 次回の中間報告会について(当日配布)
- 参考資料1: 多摩市施設白書(抜粋)
- 参考資料2: 東寺方複合施設の平面図1~3階

① 前回の振り返りや市民からの意見等 について ……資料 1 - 1 ~ 1 - 6

地域協議会と多摩市でパートナーシップ協定を締結。

前回からの進捗として、地域協議会ニュースの発行、市民からの意見、委員からの資料請求とそれに対する回答について市が地域協議会へ報告を行った。委員からは協議会の活動がボランティアであるかの確認や活動費用の支援、協議会メンバー間の会議場所の確保などに関する質問が出され、市が可能な範囲で支援する運びとなった。

② 東寺方地域に求められるサービス・機能に関する 意見交換……資料 2 - 1 ~ 4 - 3

東寺方地域に求められるサービス・機能について、各委員が自身の所属する団体で聞き取った意見も含めて意見を出した。

(“・”は委員が話した内容、“*”は市の職員が話した内容)

- ・老人福祉館・地区市民ホールが多世代型の交流型の施設に変わる点について、異論はない。
- ・どの分野であっても困ったことや聞きたいことを相談できる方にいてもらいたい。
- ・20 年・30 年後の人たちが「ここがあって良かった」と思えるような形にしていきたい。
- ・受験生の学習室の要望などの話もあるので、時間延長や Wi-Fi の設置を考えてほしい。
- ・バス通りから複合館の存在がわかるような看板がない、外の掲示板が汚くみすばらしいという話がある。施設に入りたい・利用したいという気持ちになるような施設になってほしい。また、今からでも掲示の見直し等、出来ることはやるべき。
- ・必ずしも図書館内に学習スペースがある必要はないのではないではないか。例えば、1 階や 3 階に学習スペースを持たせる、という形でも良いのではないか。
- ・図書館の開館時間の延長で便利になる人もいるけれども、閉館は 17 時のままでいいからそれよりは今不便を感じている人が不便でなくなるような、別の手立てを考えればよい。
- ・東寺方小学校で放課後子ども教室が週 5 に拡大し、これまで家にいた子が参加している。ただ、参加人数も多くスペースが足りていない印象。特に夏の時期に遊べるように体育館には空調を入れてほしい。
- ・ママさん同士でつながり、ストレス発散する場所も必要。そのときに児童館と名前があることで来やすさを感じるので、名前がなくなることに不安を感じる。
- ・誰か大人がいればよいのではなく、知見のある職員にいてもらえることが安心感になる
- ・東寺方図書館の本が今一つ魅力的でなく蔵書冊数が少ない。
- ・本を増やすのも予算が、という話もあるかもしれないが、市民の力を借りて、寄贈など募っても良いのではないか。
- ・本を 1 回読んだ後、読まない方も多いと思うので、広く集めて図書館の本を豊かなものにしたいと思う。
- ・イベントはあるものの図書館は発信力が弱く集客できていないので、もっと P R してほしい。
- ・高齢者は年齢のこともあり現在を楽しみたい、今の施設を継続して使いたい。
- ・福祉について公共施設としての役割を考慮して現状のサービスを維持してほしい。
- ・楽器の練習などができるよう防音の設備をしっかりとしてほしい。
- ・集会室は周りに同じような建物がないので強みになると思う。
- ・ちょっとした悩みを職員や知人に聞いてもらえる施設が近くにあると安心感につながる。
- ・以前に比べ子育てしづらい。費用面のバックアップはあるが、歩きや自転車で来れる範囲に児童館という場所を残してもらえると子育てするエネルギーにつながる。
- ・家にこもらずに外に出てほしいが、子どもが大きくなるにつれて今の児童館ではつまらなくなる。
- ・アウトドア特化館では、家で経験できないことを経験することができそうなのでありがたい。
- ・施設が新しく使いやすくなることでより良い施設となるのではないか。
- ・職員の目があることが重要。

- ・図書館の機能は続けてほしい。
- ・異学年が交流し、集い、遊べ、学べる場。
- ・地域のママたちと安心して出会える場。
- ・子ども食堂をやってほしい。
- ・地域の人たちが色々な形で交流できるような施設になると良い。
- ・大きい子と小さい子が混ざると危険な場面があるため、スペースは分けてほしい。
- ・勉強等静かなスペース・身体を動かす等騒いでもよいスペースを分ける。
- ・勉強できる学習スペース。
- ・子どもの学習支援を行って欲しい。
- ・福祉館があるのに子どもが高齢者と交流する機会がほとんどない、という意見が多く、交流を期待している。
- ・手芸や習い事といった形でスキルを持った大人から学ぶスペースや機会があるとありがたい。
- ・施設そのものの存在を知らないということを強く感じたので、知ってもらおう。
- ・地域で関わる人や地域にある資源をうまく使いながら、遊びの場や学びの場を作っていきたいというのは、テラコヤの理念。
- ・専門の方がその場において、安心する場が必要。
- ・ふらっと来られる場があると凄く良いと思う。
- ・食や料理、音楽、裁縫といった文化的なイベントの話しも出たが、健康や暮らしに関することなどをこの場でやっていくことができれば、この施設が生きてくる。そこに専門の方がいて相談ができるということが凄く良いと思う。
- ・今は3階、2階、1階と分断されているのをいかに解消するか。
- ・コミュニティを運営する側の人々が持続可能な状況で施設が運営できれば良い。
- ・みんな仕事に一生懸命で、共働きで、何でそんなに一生懸命働かないといけないのか、そんなにお金を稼がなくても生活できる状況が作れたらいい。
- ・お金をいただくことで暮らしを支えながら、一生懸命働かなくても暮らしていければ、子どもたちや他者との関わり合いを持つことができる
- ・子ども食堂は利用がそれなりにある。高齢者にとっても食は非常に重要な共感の場なので食を介した交流機能は必要だと思う。
- ・子どもはイライラやストレスを言葉で表現できない。自分が不安を抱えているというのを、相手にぶつけて懸命に押さえ込もうとするところある、すぐ喧嘩やいじめになる、年中そういうトラブルが起きやすいので、それを仲裁できる、児童を見てくれる大人の目は必要。
- *保護者の方の児童館があってほしいという話は当然のことだと思うが、「児童館の今後のあり方基本方針」はそれらの点も包括したうえで、将来のあり方を見据えて策定している。
- *できるだけ近い形で残していくこと、この点を皆さんと一緒に考えていく。
- *イベントがなくても児童センターに配置された児童館職員が東寺方複合施設に滞在する時間を確保できるような職員配置が、児童センターにも求められてくるとは考えている。
- *東寺方複合施設の中でも居場所ができあがると良いと思う。また、そこにアプローチができる大人、今は皆さん児童館職員が当然ベストということになると思うが、その形ではない、新しい地域の複合施設というところで、今後模索をしていく場が地域協議会だと認識している。
- ・常駐した職員がいることが大事だと思っている方が殆ど。
- ・今の規模ではなくても良いので、小さい児童館という形で残してほしい。
- *人口動態を踏まえても東寺方だけではなく愛宕や豊ヶ丘の児童館の利用状況はいずれも利用人数としては少ない。
- *見てくれる専門的な人がいるという部分がキーワードだと思うが、今の段階で申し上げられるのは、それは児童館の職員とい

う形での常駐ではないと判断をしているところ。

*社会全体の人が少ないだけでなく、市の職員全体も少なくなっていく。そういう状況でどのように子どもの居場所、子育て環境を維持していくか。

*できるだけ近い形というのがどの部分までやれるのかという所を地域協議会で模索していく

*委員の話を総合すると、コミュニティセンターにした方が良いのではないかと思った。

*皆さんが建設協議会、運営協議会を作り、皆さんの手で事業運営していくというのがコミュニティセンター。

*住民主体で、児童館というよりも多世代交流型の事業をやっていく、地域交流型の事業を行っていくのが運営協議会。

*相談に乗れる、見守りをする人材の専門性をどう担保していくか。

*仕事として従事できて、自分達がこういう風にしたら良いのでは、が形にできるというのは、コミセンのメリット。

*要望はいろいろあると思うが、行政にもだんだん体力がなくなってくるというのが先々見えている中で、どうしても地域に頼らないといけない。

*人を育てていけないといけない、お金がない。

*地域にどんな人がいるのか、顔が見える関係ができるか。

・常に見ている人材がいて、やりとりや付き合いがある日常が大事なのではないかと思う。

・児童館に近い形がどんなものか、新しいアイデアを出していけばよい。

*地域図書館として東寺方図書館を残し、地域に根ざしたサービスをしていく。

*一定程度の蔵書は必要。豊ヶ丘や東寺方については、全体の施設がどうなるかによって、蔵書数についても考えていく必要がある。

*地域図書館としては、東寺方をはじめとして、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田がある。地域に根ざした施設ということで、東寺方周辺地域の方向けにサービスを展開していきたい。

*蔵書が魅力的でないという声もあったが、地域の方のご意見を聞きながら、取り組みに反映していきたい。

③ 次回、東寺方複合施設の整備に向けた地域協議会の第1回中間報告会について…資料5-1、5-2

日程：8月9日（土）10:00～12:00

場所：多摩市立総合体育館 第1会議室

内容：東寺方複合施設に関する地域協議会のこれまでの検討・取り組み内容について